

生活線戰そのもの、本体を知り、而して後宗教的手段を講じて教化戰線に第一步を踏み出すのが今日
即ち昭和時代の宗教家としての當面の問題ではなからうか。

己上

(昭和五年八月卅一日脱稿)

隨感 凡身禮讚

貫名英雄

□鬼、佛はこれ凡身にあり、人多く自からを損して其の罪を天運に飯し、他を責めんとす、あやまれ
るかな。

□自己の進路をはぐむものは我なり、自己を墮落せしむるものも、亦我なり。思へ六國を亡ぼすもの
秦にあらざるを。

□世の人、惡魔我を惱ますといふ、惡魔の存在を知れりや、彼の隠れ屋を突きとめずして、徒らに、
此の言をなす、無意味なるかな。

□墮落、汚れの所在は何處ぞ、外より來る汚穢は穢とするに足らず、識るや、惡魔も汚れも、汝の内

にある事を。

□世に神に祈る者あり、佛陀に信賴するものあり。可なり、大に可なり、然るに何ぞ、自己に還り、自己を信賴するの薄弱なるや。

□己に還へることを知らず、自己に祈り、自己を信ずる能はず、只管ら神佛に向つて何物をか求めんとす、愚なるかな。

□佛陀を信ぜよ、佛陀に祈れ、自己を信じ、自己に祈れ、佛陀と自己との距離近きか遠きか、眞に自己を信じ得るものは、佛陀を信じ得。

□佛身は法界に充つ、佛光は十方に遍し、佛力は三世をつらぬき、恒に吾人の前に現じ、内に活けり、無限の力、無邊の慈みに浴せよ。

□佛陀を信ずる者の爲には、惡魔何處にかある、十方法界は光明に滿てり、我も亦佛土にあるを自覺せよ、佛陀と吾との牆壁を排除せよ、始めて完全に救はれん。

□タ々佛を抱いて寝ね、朝々佛と共に起きつゝあり、吾れは佛と共に學び共に働く、あなありがたいかな。